

新入生の皆さんへーポルトガル語学科へようこそ

学科長 子安昭子

最近書店にいくと、『〇代でやっておくこと』や『〇才からの…』という本をよくみかける。90才や100才の人たちがこれまでどうやって生きてきたのか、といった本も売れているらしい。人間だれしも、多かれ少なかれ、今をどう生きるか、またこれからの人生がどうあるべきかを考えているのだと思う。かくいう私もこういった本はつつい手にとってしまうのだが・・・。

今年大学生となる皆さんの多くは、上智大学で10代後半から20代前半を過ごすことになる。多くのことを経験し、己の可能性を広げる時間になればと願っている。ただ同時に皆さんにはすでに取り組むべきことがある。ポルトガル語づけの4年間を覚悟してほしい。詳しくは先輩たちに尋ねてほしいが、1年生と2年生は週6回(6コマ)のポルトガル語基礎の授業が待っている。動詞の活用や、単語、ポル語作文など、予習復習は必須である。でもそれだけではない。わがポルトガル語学科は言語を学ぶとともに、その言語が話されている国や地域の歴史、政治、経済、社会、文化についても理解を深めることを目指している。ポルトガル史やブラジル史といった授業は必修科目である。「語学と地域研究は車の両輪である」一卒業までにこのフレーズを幾度となく聞くことになると思う。

1年、2年のポルトガル語は指定されたクラスになるが、3年生、4年生のポルトガル語は「選択必修」といわれるカテゴリーのもとで、各自の関心に合わせて授業を選べるようになる。ただ卒業までに必要な単位は決まっているのでご注意ください。3年になると、ポルトガル語圏を含め海外留学する人も少なくない。またそれぞれが選んだ研究コースのもとで、より専門性の高い講義や演習にも参加できるようになる。

大学4年間は思ったより短い。人にもよるが、3年次後半になれば、インターン活動などを通して卒業後の進路を真剣に考え始めることになる。4年になると、学業と就活のバランスの難しさを感じることもあるかもしれない。

人間いくつになっても、今の自分でいいのか、今後どう生きるべきかを考えるものだが、新入生の皆さんも、上智大生として過ごすこの4年間はこの問いに対する答えを探す日々になると思う。ポルトガル語を学ぶことが皆さんの今そして将来にとって意義のあるものになるように、心から祈っています。

## 2年次以上の皆さんへ

さあ、新年度のスタートです。社会に飛び立つ日まで、大学生として、それぞれの課題や目標に向かって精一杯努力してください。今後とも有意義な学生生活を送れるように、教員一同願っています。